

未来へ響く伝統の息吹

～町が誇る無形文化財の魅力を次世代へ～

豊山町には、時を超えて大切に守り継がれてきた3つの無形文化財があります。

大木や巨大岩を運ぶ際のかけ声が唄になったとされる「**木遣(きやり)**」、宝暦年間(1751～1764)に八所神社で始まったとされる「**神楽(かぐら)**」、そして300年以上前に伊勢山地区の誕生と共に生まれた「**伊勢山神楽**」です。これらの伝統芸能は、町の儀礼や祭礼行事に欠かせない存在として、今もなお人々の心に根付いています。

しかし、後継者不足が課題となっている中、次世代へこの文化を確実に受け継いでいくため、各団体では後継者育成や普及啓発活動を進めています。今月号では、これらの無形文化財の魅力を詳しくご紹介します。豊山町の伝統を共に支え、未来へとつないでいきましょう。

「**木遣**」は、大木や岩を運ぶ際の力強いかけ声が唄に発展したものです。

豊場の木遣が始まった時期は不明ですが、戦国時代の築城を契機に広まり、祝い事で歌われるようになりました。豆絞りの鉢巻を締め、足拍子を取りながら「棒振り」という所作で行われる木遣は、威勢が良く、おめでたい歌詞が特徴です。

昭和44(1969)年に豊場木遣保存会が結成され、平成5(1993)年に町無形文化財に指定されました。毎年、旧暦2月の重ねの朔日には行列に参加し、町の祭りを彩っています。

現在、豊山木遣保存会では、共に木遣を伝承する新たな仲間を募集しています。性別や経験を問わず、どなたでも大歓迎です。お気軽にご連絡ください。

(練習日: 第1・第3火曜日 午後7時30分～午後9時 東部学習等供用施設)

問合せ・入会申込: 安藤 彰敏(28・0833) 坪井 雅仁(080・5137・4351)

統
承



木遣 KIYARI